

| | | | |
|--------------|-------------------|------------|------|
| 授業科目名 | 教職表現力演習 (2100302) | | |
| 時間割名 | 教職表現力演習 (52110) | | |
| 時間割担当 | 山本美紀 | | |
| 実施期 | 通年 | 単位数 | 1 選択 |
| 曜日・時限 | 金・2 | | |

授業の目標・概要

現行の学習指導要領では、児童生徒の思考力、判断力、表現力等を育む観点から、各教科等において言語活動を充実することが強く求められている。言語活動とは、話す、聞く、書く、読む力（見る力も求められることがある。）によるものであり、何よりも教師自身がその力を確実に身に付けていなくてはならない。本授業では、1年次で履修した教職表現力演習を受け、これら4つの言語能力のうち「書く力」である「文章表現力」を身に付けること、とりわけ、論文を書くために必要な基礎的な力を身に付けることを特に重視する。この力は、3年次以降の学びに直結するものである。併せて、日本語の語句や語彙をはじめ、教師としての話法、メディア等についても幅広く学び、総合的な言語能力を伸ばすことを目標とする。

学習の到達目標

本授業では大学生・社会人として求められる日本語の基礎的な力の習得、及び専門的な研究や、幼・小・中・高等学校の教師として必要な文章表現に関わる知識と確実な運用力の獲得を到達目標とし、具体的には、各自が論文を完成する。

授業方法・形式

各回、テーマを設定し、解説と演習を中心に授業を進める。各回とも、書くことの課題を示し提出を求める。前期、後期に渡って設定している「論文に挑戦」では、前期において基礎的な内容を学び、各自のテーマを設定する。夏季休業中から後期の前半を、文献や資料、データ等の収集期間とし、後期の後半で論文にまとめ提出する。なお、「言葉の力を付ける」については後期の前半で集中して取り上げるが、その期間以外も、適宜授業に組み込んでいく。

授業計画

<前期>

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 コミュニケーションとしての話し言葉と書き言葉
- 第3回 教師としての話すこと聴くこと
- 第4回 情報を伝える力
- 第5回 情報を伝える力
- 第6回 情報を伝える力
- 第7回 情報を伝える力
- 第8回 情報を伝える力
- 第9回 論理的に思考し伝える力
- 第10回 論理的に思考し伝える力
- 第11回 論文に挑戦
- 第12回 論文に挑戦
- 第13回 論文に挑戦
- 第14回 論文に挑戦
- 第15回 まとめ

<後期>

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 言葉の力を付ける
- 第3回 言葉の力を付ける
- 第4回 言葉の力を付ける
- 第5回 言葉の力を付ける
- 第6回 言葉の力を付ける
- 第7回 言葉の力を付ける
- 第8回 教職時事とメディア
- 第9回 教職時事とメディア
- 第10回 教師としての話すこと聴くこと
- 第11回 論文に挑戦
- 第12回 論文に挑戦
- 第13回 論文に挑戦
- 第14回 論文に挑戦
- 第15回 まとめ

成績評価の基準

課題提出(40%) 小テスト(20%) 期末テスト(40%)
毎回の課題を必ず提出すること(それが平常点を兼ねている)。

授業時間外の課題

授業時に指示する。参考図書等による情報収集や、指示された文章作成課題等を、指定された授業時まで完成させてくること。

メッセージ

文章は書かない限り上達しない。苦手であればあるほど、早い時期から、継続的に取り組むことが大切である。特に論文作成については、難しいことと思うかもしれないが、適切な時期に、的確な手ほどきを受けると、必ず書けるようになるものなので、あきらめず取り組んでほしい。そのために、担当教員が全力でサポートしていくので、信じてついてきてもらいたい。

教材・教科書

授業時に指示又は配布する。なお、文章作成の必要上、国語辞典（電子辞書でもよいが、携帯電話の辞書は不可）の持参は必須。

参考書

授業時に適宜紹介する。